<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>自然災害と防災</td><td>教員名</td><td>松田　昭憲
（実務経験のある教員）</td><td rowspan="6">卒業及び
免許・資格
との関係</td><td>卒業</td><td>選択必修</td></tr>
<tr><td rowspan="5">科目番号
SIZ202
授業形態
講義
単位数
2単位</td><td rowspan="5">配当年次</td><td rowspan="5">1年～４年（後期）</td><td>小学校教諭</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>幼稚園教諭</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>保育士</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>こども音楽療育士</td><td></td></tr>
<tr><td>情報処理士</td><td></td></tr>
<tr><td>科目</td><td colspan="6">防災士</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>施行規則に
定める科目区分</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>一般目標及び
到達目標</td><td colspan="6">①　自然災害発生のメカニズムについて学修・理解する。
②　防災・減災対策について、行政・地域における現状と課題について学修・理解する
③　発生した自然災害等に対して、危機管理のための手法について学修・理解する。
④　救急救命に関する講習を研修することにより、必要に応じて迅速な救急救命対応ができる手法を身に付ける。</td></tr>
<tr><td>ディプロマ・ポリシーとの関係</td><td colspan="6">本講義・演習は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「１．　社会・教育等に関連する国内外の様々な問題について、現状・課題を認識し、その解決策を考察できる能力を身につけている。」を育成する科目として配置している。</td></tr>
<tr><td>授業の概要</td><td colspan="6">宮崎県は、九州地方南東部に位置し、年間を通して温暖な気候に恵まれている。しかし一方では全国有数の雨が多い県であり、さらに夏季期間中には台風の直撃を受けるなど、風水害や土砂災害に悩まされてきた。また、宮崎は、近い将来、南海トラフの西端に位置する日向灘で起こる海溝型の地震である東南海・日向灘地震による大きな被害が想定されている。特に、過去の歴史をさかのぼると、日向灘地震は大津波を伴い、多くの犠牲者を出してきた。また、霧島連山では平成23年に新燃岳が噴火し、多くの被害が発生した。従って、これらの災害・被害等を最小限にするために、小学校・幼稚園・保育園等の教員を目指す学生は、ソフト・ハードの両面から、自然災害が起こる仕組みや防災対策・情報等を事前に知ってしておくことは極めて重要となる。
本講義では、「命は自分で守る（自助）」「地域で活動する（共助・協働）」「災害発生のしくみを学ぶ（科学）」「災害に関わる情報を知る（情報）」「新たな減災や危機管理の手法を身につける（予防・復興）」の分野について、受講・学修することにより、災害発生の仕組みを理解し、ついで、防災・減災対策について行政・地域における現状と課題を取り上げ、さらには一旦発生した災害を想定した危機管理の手法を学修・理解する。
本講義を受講した後、救急救命講習を受講し、さらに日本防災士機構による試験に合格し、所定の手続きを行った場合に防災士の資格認定が行われる。</td></tr>
<tr><td>履修条件・注意事項</td><td colspan="6">受講に際しての留意事項：
1)　日本防災士機構における規程等で授業計画を編成しており、受講者は100人以上であることを基本とする。
2)　防災士資格取得には、救急救命講習の受講と本講義の終了後に行われる防災士資格取得試験に合格することが必要です。
防災士資格試験を受験するためには、全ての講義に出席し、講義のレポート及びレポートとして課された課題に対するレポートを全て提出する必要があります。なお、学則等で規定された公欠の場合にも録画した映像による受講とレポート提出が条件となっている。
本講義の講師は、「命は自分で守る（自助）」「地域で活動する（共助・協働）」「災害発生のしくみを学ぶ（科学）」「災害に関わる情報を知る（情報）」「新たな減災や危機管理の手法を身につける（予防・復興）」などの自然災害と防災に関連する公共機関等に所属する専門家による協力体制で講義を実施する予定である。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">授業計画</td><td colspan="6">自然災害と防災は以下の計画に沿って実施する。（令和７年度開講した期日・内容）</td></tr>
<tr><td>第1回（21講）
レポート（補講４）</td><td colspan="5">・オリエンテーション　松田昭憲
・講義・防災士の役割・防災対策（防災士制度）　芝崎敏之(予定)
(防災士制度が作られて歴史的背景から理解し、現在防災士に期待されている役割や、実際の活動とその社会的評価について学ぶ。)
・講義：防災士が行う各種訓練（ＤＩＧ演習）</td></tr>
<tr><td>第2回（第12講）
レポート（補講3）
レポート（14講）</td><td colspan="5">・講義：災害医療とこころのケア　熊谷泰治(予定)　(災害医療に関する基礎的知識を修得し、防災士が行うこころのケアとは何か、また東日本大震災後の災害医療の課題について知る。)
・災害と損害保険
・企業・団体の事業継続</td></tr>
</table>

	第3回（第4講）	・講義：火山災害　甲斐禎朗　（予定） （火山噴火による災害にはどのようなものがあるか、また現在の火山噴火予知がどのように行われているかを学ぶ。）
	第4回（第2講） レポート（補講1）	・講義：近年の自然災害に学ぶ　原田隆典(予定) （地震に関する基礎的な知識を修得し、地震による被害にはどのようなものがあるかを学ぶ。） ・近年の自然災害
	第5回（第15講） レポート（10講）	・講義：津波による災害・備え　村上啓介(予定)　（津波発生のメカニズムや津波地震及び遠地津波とは何かを知り、津波による被害を軽減するにはどのような対策が必要かを学ぶ。）
	第6回（第３講） レポート（11講）	・講義：土砂災害　篠原慶規(予定)　（土砂災害の特徴と課題を理解し、土砂災害対策にはどのような対策があるかを学ぶ。） ・復旧・復興と災害者支援
	第7回（第２講） レポート（16講）	・講義：風水害と対策　山崎幸栄(予定)（日本の気候・地域特性と風水害との関係や地球温暖化と異常気象の現状を知り、さらに自助としての水害対策にはどのようなものがあるかを学ぶ。） ・風水害・土砂災害等への備え
	第8回（第8講） レポート（第5講）	・講義・災害情報の活用と発信．黒木裕司（予定）（災害情報提供の方法にはどのようなものがあるかを知り、新しい伝達手段についても学ぶ） ・広域・大規模火災
	第9回（第１講） 補講2	・講義：地震による災害・備え　原田隆典(予定)　（地震発生のメカニズムを知り、地震による被害を軽減するにはどのような対策が必要かを学ぶ。） ・耐震診断と補強
	第10回(第７講)	・災害関連情報と予報・警報　土屋春彦(予定)　（気象、洪水、地震、妻に、火山噴火に関する予報・警報などの情報にはどのようなものがあるかを学ぶ。）
	第11回（第９講）	・行政の災害対応と危機管理　新名　俊紀(予定)　（災害対策基本法などの災害対策に関する重要法令を理解、行政が防災に関してどのような組織を設けているか、また平常時に行っている防災対策について学ぶ。） ・行政の災害救助・応急対策
	第12回（第18講） （第20講）	・講義：災害とボランティア活動　筒井恵子予定)（ＨＵＧ演習）　（昨今の主な災害時におけるボランティア活動から、災害ボランティア活動の役割と機能を学ぶ。） ・講義：避難所の設置と運営協力　出水和子（ＨＵＧ演習）（避難所設置と運営協力について、具体的に学ぶ。）
	第13回（第６講）	・講義：被害想定・ハザードマップと避難　村上啓介(予定)（ＨＵＧ演習） （地震に関する基礎的な知識を修得し、地震による被害にはどのようなものがあるかを学ぶ。また、ハザードマップを知り、避難時における具体的な対応策を学ぶ。）
	第14回（第17講） レポート（第13講）	・講義：自主防災活動と地区防災計画　出水和子（予定）（ＤＩＧ演習）
	第15回（第19講） （補講4）	・講義：地域防災と多様性への配慮（ＤＩＧ演習）　出水和子（予定） ・演習：防災士が行う各種訓練　出水和子（予定） ・ライフライン・交通インフラの確保
授業外学修時間の確保について	受講するにあたって、教本を必ず一読しておくこと。また、履修確認レポートは所定の期日（事前・事後学修）までに必ず提出すること。このため、毎日３時間以上の授業外学習を行うこと。	
学生に対する評価	毎回のレポートによる学則・履修規程に沿った成績評価（秀・優・良・可・不可）及び日本防災士機構による資格試験(実施日未定)結果により防災士資格が授与される。 ・防災士資格取得試験　日本防災士協会（50分）	
テキスト	防災士教本（認定特定非営利活動法人　日本防災士機構）を必ず購入し、授業等で使用すること。	
参考書・参考資料等		
担当者からのメッセージ	試験に合格するためには、毎回、課される「履修確認レポート」と「防災士教本」をしっかり読み、理解しておくこと。防災士資格は、日本防災士機構により、80%以上の正解率で認定される。	
オフィスアワー	・曜日・時間等を明記できないが、必要な場合メールによるアポイントを取って来室すること。	
備考		